

く駆け付けていただき、ご支援いただいた皆様に、復興した熊本県を一日でも早く見ていただきたいという気持ちから、持ち回りの開催順よりも早く本県での開催することを決めました。

本大会では、特別講演としてSF作家で薬学博士の瀬名秀明氏より『総合知』を意識した『COVID-19』への向き合い方、熊本大学発生医学研究所腎臓発生分野の西中村隆一教授より「腎臓組織の試験管内作製とその応用」についてご講演いただき、県民公開講座としてKMバイオロジクス株式会社の永里敏秋代表取締役社長より「新型コロナウイルス開発の現状とこ



れから」についてご講演いただきました。また、九つのシンポジウム・口頭発表・ポスター発表等を通じて、超少子高齢化等を含む二〇二五年問題やWithコロナ・ポストコロナを踏まえた薬剤師の未来像を思い描く機会を参加者に提供することができたのではないかと思います。

当日はあいにく台風十四号が接近し、公共交通機関等が運休する中での開催となりましたが、Webも併用して、多くの薬剤師の皆様に参加していただくことができました。

本大会の開催にあたり、ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第二十七回熊本医学・生物科学国際シンポジウム開催

熊本大学病院小児科 講師
城戸 淳
熊本大学大学院生命科学研究部
小児科学講座 教授
中村 公俊

熊本大学発生医学研究所
幹細胞誘導分野
江良 択実

二〇二二年十一月二十三日(水)、熊本城ホールにて第三十七回熊本医学・



熊本城ホール大会議室 (A4) にて撮影

生物科学国際シンポジウム「小児難病の科学」を開催しました。本シンポジウムでは、「小児難病の科学」をテーマとして、小児難病の研究・診療をされている国内または海外の一流の医師・研究者をお呼びし、小児難病における、現在行われている研究、最新の知見およびこれから臨床応用されるかもしれない治療法について講演していただき、これらについて活発な議論がなされました。

当日は、中村公俊先生(熊本大学)、山縣和也先生(熊本大学)が開会のご挨拶をされ、セッション1では、日比泰造先生(熊本大学)の座長の下、Dr. Stefan Koelker (University

Children's Hospital Heidelberg), Dr. Yin-Hsiu Chien (National Taiwan University Hospital), Dr. Dau-Ming Niu (Taipei Veterans General Hospital) の三名の先生方が、有機酸血症の病態や治療法における最新の知見、最新の先天代謝異常症の新生児スクリーニングおよび Whole Genome/Exome Sequencing を使用した最新の遺伝性疾患の診断技術について御講演されました。セッション2では、中村公俊先生(熊本大学)の座長の下、Dr. Johannes Häberle (University Children's Hospital Zurich), 村山圭先生(千葉県こども病院)が尿素サイクル異常症とミトコンドリア病の最新の知見について御講演されました。セッション3では、植田光晴先生(熊本大学)の座長の下、沼川忠広先生(熊本大学)、岡野栄之